



議会だより

12月定例会号

平成28年 1月29日発行

No.131

こうみ



予算決算常任委員会が新設されました ②

芦平地区土砂崩落災害について ③

一般質問 ⑥

町議会行政視察レポート ⑭

常任委員会からの要望 ⑮

編集後記 ⑯

小海町消防団出初式「力強く分列行進」

きかせて あなたたちの夢

あなたたちの未来に寄り添うために

12月議会 第4回定例会で 予算決算常任委員会が新設されました

平成27年小海町議会第4回定例会が12月3日から17日まで15日間の会期で開催されました。

条例案3件、補正予算案4件、契約議決1件、審議会委員の選任2件、請願1件、陳情2件、発議3件、常任委員会関係の選任2件の合計18件で審議が行われ、陳情1件が継続審査となり、その他の案件は可決されました。

一般質問では、8名の議員により行われ、町の考えをただしました。

小海町議会委員会条例の一部を改正する条例

賛成多数で可決

(賛否の内容については5Pをご覧ください)

町議会ではこれまで予算、決算の審査を総務産業常任委員会と民生文教常任委員会で分けて行ってきました。

議員より分割審査では、自分の所属しない委員会での審査ができないため、審査が十分にできず、議員全員で審査が必要などの意見があり、今年6月より予算決算常任委員会検討委員会を立ち上げ、委員会構成、審査方法などを協議してきました。又、この間、既に常任委員会で審査をしている下伊那郡喬木村議会の取り組みの視察を行いました。平成28年3月開催の第1回定例会から提出される一般会

計、各特別会計、事業会計予算の審査を予算決算常任委員会で行ないます。

議員による協議の中では、委員会立ち上げの協議がまだ十分ではない、立ち上げ後の効果が見えないなどの意見が出されましたが、議員発議により条例の改正案を議会に提出し、賛成多数で可決されました。

予算決算常任委員会委員には、鷹野雄之助議長を除く11名が選任され、委員の互選により委員長に篠原伸男議員、副委員長に鷹野弥洲年議員が選任されました。

平成28年3月議会より予算、決算の審査は予算決算常任委員会で行われます

● 予算決算常任委員会

委員長あいさつ

篠原 伸男



予算の議決、決算の認定は議会の重要な権限の一つです。今までは二つの委員会で審査してきました予算、決算を全議員が参加したこの委員会で審査し、議員一人一人が予算、決算を全て把握して、町への監視機能を高め、議決権・検査権等の充実を図り、町民の皆様様の多様な意見を町政に反映し、設置して良かったと言われる委員会にしていきます。

委員長	篠原 伸男
副委員長	鷹野弥洲年
委員	有坂 辰六
委員	篠原 義従
委員	篠原 憲雄
委員	新津 孝徳
委員	篠原 恒一
委員	的埜美香子
委員	井出 薫
委員	土橋 勝一
委員	佐藤二三雄

※鷹野雄之助議長はオブザーバーとして委員会に出席します。

芦平地区土砂崩落災害の現地視察、協議が行われました

11月30日芦平地区で発生しました土砂崩落災害について、町議会による現地視察、全員協議会が行われました。

町からの災害発生の連絡を受け、12月1日議長、副議長、常任委員長、議会運営委員長による現地視察が行われ、災害の発生状況、今後の対策について町からの説明を受け、引き続き役場で協議をしました。

12月3日議会招集日に開催された全員協議会において、再度災害の発生状況、今後の対策について町からの説明を受け、協議をしました。12月9日には、町議会の現地視察が行われ、災害発生後に設置された安全対策の伸縮計、監視カメラ等の設置状況、今後の対策について町からの説明を受け、引き続き開催された全員協議会において再度現場の状況、避難されている世帯の皆さんの状況、今後の対応などについての報告を受け、協議をし、今後1日も早い安心・安全の確保に努めていく事を確認しました。



芦平地区土砂崩落災害現場



担当課長より説明を受ける町議会議員

今回の芦平地区土砂崩落災害について総務産業、

民生文教常任委員会から要望が出されました

総務産業

●芦平土砂崩落災害について、国・県の協力を得て原因を究明し、応急対策を速やかに講じ、早期復旧と住民の安全・安心の確保に努められたい。

○町長

芦平の土砂崩落災害は、11月21日に前兆現象が確認され、応急対策等を検討中の11月30日に大崩落が発生してしまいました。町の議会中であり、その都度報告をさせていただき、また、議員の皆様にも現地視察をしていただきました。

本日に至るまで、県のご協力の下、国の専門官による現地調査がされ、伸縮計の設置、ボーリングによる地盤調査の準備、監視カメラの設置等により現場監視、2次災害防止に努めて参りました。

また、12月5日には、地元説明会を開催し、状況を説明すると共に、自主避難の3戸6名の皆様には、避難先住居のあっせん、生活相談や健康相談を行い、日常生活の安全、安心の確保に努めて参りました。

今回の土砂崩落につきましては、調査、監視を続けておりますが、現時点では、直接原因が不明であり、原因究明と共に応急対策工事を県と共に現在検討を進めております。12月16日に県土木部長、砂防課長に迅速な対応のお礼と共に今後の対応についてお願いしました。県もできる限り早く対応すべく、佐久建設事務所を中心に精力的に対応して頂いております。

今後も県と連携し、原因究明に努めると共に、地元と協議しながら、応急対策をできるだけ早く施工すべく、県にお願いをして参ります。また、事態が終息するまでには、まだ時間が必要な状況となっている事から、再度地元説明会を開催すると共に引き続き避難されている皆様や区民の皆様への不安解消と情報提供を行うと共に、地元の要望を踏まえた対応に万全を期して参ります。

民生文教

●芦平土砂崩落災害にあつては、避難者等の支援について万全を期されたい。

○町長

現在、自主避難をしていただいては、必要に応じて住宅扶助等経済的な支援を行っているところがございます。

また、町民課内に世帯ごとにケアチームを編成し、保健師と共に定期的に訪問し、健康面のチェックや心のケアの実施をしております。

事態の収拾はまだ続く訳でございますけれども、引き続き避難されている皆様や区民の皆様への対応に万全を期して参ります。

この他の各常任委員会からの要望は15Pをご覧ください。

9,786万円を追加補正 総額39億9,942万円

【歳出の主なもの】

●旧小海町公民館解体設計委託料の新規計上	195万円
●子育て世帯住宅建設費補助事業費の追加計上	410万円
●国民健康保険会計への繰出金の追加計上	5,870万円
●除雪機2台の追加購入費の追加計上	136万円
●北牧楽集館トイレ等公園整備事業費の追加計上	450万円
●高原美術館施設修繕費の追加計上	420万円

【財源の主なもの】

●町税	800万円
●地方交付税	830万円
●町債	7,546万円

27年度 特別会計補正予算

国民健康保険事業特別会計	8,891万円追加補正	総額 7億1,221万円
介護保険事業特別会計	471万円追加補正	総額 6億3,833万円
水道事業会計 (資本的支出)	2,186万円追加補正	総額 7,977万円

条例

◆今年10月から付番された個人番号を福祉医療事務に利用することができる様新たに条例を定めるものです。

全員賛成で可決

◆地方税法の改正により町税の徴収猶予、各税目において個人番号、法人番号の規定を追加するものです。

全員賛成で可決

◆今年10月から年金制度が一元化されたことにより、消防団員等の公務災害の補償に関する条例の語句等の整備を行い、高度の危険が予測される状況での消火、救出活動などの特殊公務災害が減額対象にならない様にするものです。

全員賛成で可決

財産の取得

◆町営路線バスの更新に伴い、中型バス1台を指名競争入札により三菱ふそうトラック・バス(株)より930万円で購入しました。

全員賛成で可決

その他

◆中小企業振興資金あつ旋審査委員会委員を篠原義従議員から新津孝徳議員に変更して選任するものです。

全員賛成で可決

◆農業振興審議会委員を新津孝徳議員から篠原義従議員に変更して選任するものです。

全員賛成で可決

請願・陳情等

◇米軍輸送機CV22(海軍)・MV22(海兵隊)両オスプレイの飛行訓練に反対し、飛行中止を求める意見書提出の請願について賛成多数で採択し、関係大臣に意見書を提出しました。

◇介護労働者の処遇改善及び人員配置基準の改善を求める陳情について全員賛成で採択し、関係大臣に意見書を提出しました。

◇最低制限価格の設定に関する陳情書について全員賛成で継続審査となりました。

第4回定例会の審議中賛成多数で可決された議案等

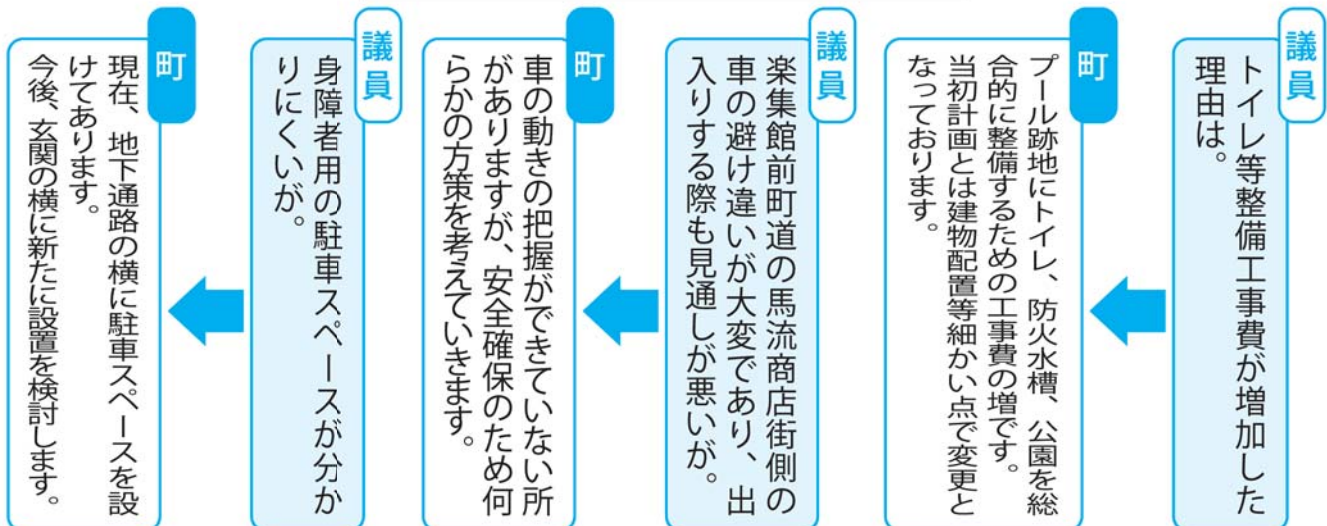
(○は賛成 ×は反対)

(議案名等)	(議員氏名)	有坂辰六	篠原伸男	篠原義従	篠原憲雄	新津孝徳	篠原恒一	鷹野弥洲年	的埜美香子	井出 薫	土橋勝一	佐藤二三雄	鷹野雄之助
小海町議会委員会条例の一部を改正する条例		×	○	×	○	×	×	○	○	○	○	○	議長職
米軍輸送機CV22(海軍)・MV22(海兵隊)両オスプレイの飛行訓練に反対し、飛行中止を求める意見書提出の請願(委員会審査 継続審査)		○	×	○	×	○	○	×	×	×	×	○	
米軍輸送機CV22(海軍)・MV22(海兵隊)両オスプレイの飛行訓練に反対し、飛行中止を求める意見書提出の請願(委員会審査不採択により採択で採決)		×	○	×	○	×	×	○	○	○	○	×	
米軍輸送機CV22・MV22両オスプレイの飛行訓練に反対し、飛行中止を求める意見書の提出について		×	○	×	○	×	×	○	○	○	○	×	

北牧楽集館の公園整備費、管理運営費の変更が可決される

27年10月に開館した北牧楽集館グラウンドのトイレ等整備工事費、管理運営費について、予算を増額して実施されることになりました。

こんな委員会質疑がありました



問 町民の財産である森林・木材の活用とバイオマスの研究を

答 町長 森林組合と共に有効利用について一緒に考えていきます



新津 孝徳 議員

問 政府は環太平洋戦略的経済連携協定、いわゆるTPPの大筋合意に伴う国内対策を盛り込んだ総合的なTPP関連政策大綱を決定しました。農業従業者の高齢化が進み、既存の農業経営を後継者等、若い担い手に継承する事は持続的、持続可能な農業を実現するうえで極めて重要であります。

我々の周りでも年々農業離れが進んでおり、これらに対する対策の実現は喫緊の課題であります。

地方創生と高々に取り組み中ではありますが、中山間地に

おいては、ずっとこの問題と向き合ってきた。岡山県の西栗倉村を視察して来ましたが、大変参考になりました。

小水力発電、太陽光、C材や廃材を利用してのバイオマス発電、灯油から薪に替えるのボイラーを村内施設にと、先ず出来る事から積極的に行っていきます。何より村をあげて職員が頑張っている事です。町長に伺います。伐期を迎えた森林、木材の利用について町長の考えをお聞かせ下さい。

町長 この資源を活用していく事は当然ですが、森林組合と一緒に考えていきます。

住宅リフォーム助成に薪ストーブを加える事も一つの考え方です。

新津議員 木質バイオマスの研究については、まだ考えていないと感じました。

長和町の齊藤木材株の社長は言っています。県産材を使って「山へお返しする。」こういう気持ちが必要です。

下伊那の泰阜村では有志が薪スタンド組合を作り50代から80代まで16人が頑張っている。そして村もこの事業に助成している。

小さな事、出来る事から始めるすばらしい取り組みだと思えます。

問 次に「親沢の人形三番叟」について質問します。諏訪神社春の例祭で二百五十年前から演舞、奉納されている三番叟の伝承が難しくなってきたり、教育長の思いをお聞きしたい。

教育長 町の宝として、後世に引き継ぐ方法を検討していきます。

町長 春の祭には外に嫁いだ皆さんや親戚、多くの皆さんが故郷へ戻って来ます。伝承を守り育てている事に感謝しています。

今後もずっと継承され、町の文化として続く様町として何か出来るか一緒に考えて参ります。



西栗倉村の温泉施設で薪のボイラーを視察

問 まち・ひと・しごと創生総合戦略のアンケート結果を踏まえて、感想及び対策は

答 町長 アンケート調査で、出ました町民の皆様のご意見、ご希望を尊重し、出来る事案から進めて参ります



篠原 義從 議員

篠原議員 一般質問に入る前に、芦平土砂崩落のため、自主避難されている方々に心よりお見舞いを申し上げますとともに、一日も早く自主避難が解除されますようお願いいたします。

問 町では、地方創生総合戦略策定アンケートを実施し、町民皆様の考えや思いを事業に反映させ、総合戦略を進めて行くようですが、アンケート調査の結果を踏まえ、質問させていただけます。最初に、永住意識について

の結果ですが、是非他の町村に転出したい、また出来れば他の町村に転出したいが10%ありました。この結果を踏まえ、町長の考えをお聞きしたい。

町長 転出したいと、お答えになった皆様方の要因は色々あると思いますが、町といたしましては町営住宅、宅地の確保、生活環境整備、通勤、通学、子育て、保健、医療、福祉、教育等々を充実させ住んでいて良かった、また住んでみたい、そして町全体の活力が維持出来る様な施策を今

後進めて参ります。

問 次の質問に移させていただきます。農林業を営むことについての調査結果で、農地森林の維持管理、後継者、担い手不足を心配している人達が50%を超えています。町の基幹産業である農林業を衰退させないために町はどのような考えをお持ちか。

私は前にも述べさせていただきましたが、農林業の法人化しか無いと考えています。会社組織にしますと年間雇用に約束し、冬の農業など、冬期間の就労を確保しなければなりません。

そこで町の自然エネルギーを使い、温泉(温水)、水(水力発電)、木材(バイオマス)などのエネルギーを使い事業を推進することを考えたかどうかと思います。水力発電、バイオマスは、雇用も生み出し一石二鳥の取り組みになり、バイオマスは、林業の育成にもつながります。

町長 町の基幹産業の一つで

あります農業が衰退してしまいますと、町も同時に衰退してしまうというところでございますので、新規就農者の受け入れ、また提案をしていただきましたことを含めまして、JA、農業者各方面の皆さんにご意見をお聞きして参りたいと思っております。



完成に向けて工事が進む土村栄町定住者向け町営住宅

問 高齢者介護の実態と支援策について

答 町長 経済的な面と精神的な面も合わせて施策の充実に努めます



篠原 恒一議員

問 昨年11月21日に起きた埼玉県での無理心中事件は、まだ記憶に新しいところですが、一家3人が乗った軽乗用車が利根川に突っ込み、74歳の父と81歳の母が亡くなり、47歳の娘が殺人と自殺ほう助の疑いで逮捕された事件は、認知症の母を介護して10年、家計は高齢の父が新聞配達で支えていた。その父が体調を崩して働けなくなり、死にたいと頼まれたという。介護の疲れと生活苦が動機とすれば、大変痛ましい事件であります。同居して子供夫婦が親を見る家庭、老夫婦のみで夫を介

護し又は、妻を介護する家庭もあると思います。介護の大変さは実際に介護した者でなければ分かりません。当町においてこの様な事例があるとすれば心配です。介護の実態について伺います。

町民課長 当町における要介護の認定者は合計で300名おります。サービス別で見ると在宅系サービスが201名、施設サービスで76名が利用しています。現在、紹介にありました様な世帯はありません。

問 経済的理由により施設サービスを受けられず在宅で介護をせざるを得ない家庭が今後、増加して来ると懸念されます。町として今後の支援策について伺います。

町民課長 町としては現在、低所得者に対しての補助及び補足給付といった助成をする中で、経済的な面での支援を行っています。又、精神的な面での支援としては、包括支

援センターを中心として介護者の相談に乗っておりますし、支援策も実施しています。

町長 高齢者介護という事で、悲惨な事例を紹介して頂きました。小海町でこの様な事が発生しない様、しっかりと施策を推進して参ります。

篠原議員 福祉充実は町長の公約でもあります。手厚い支援が出来る様お願い致します。



問 小海町内に政策インターを造るよう 要望すべきだ

答 産業建設課長 町長 口頭ではお願いしたが文書ではしていません
早急に国土交通省に要請行動をします



鷹野 弥洲年議員

問 中部横断自動車道の工事が進んできたが、八千穂から長坂までの整備の見通しは。また、小海町の中心部を通過すると予測されるが、小海町として町内に政策インター(国の負担によるインターの整備)を建設して欲しいとの要望を国土交通省にしてきたのか。

産業建設課長 現在、環境アセスメントを行っているところであり、終わると事業化されます。政策インターは口頭ではお願いしてきましたが、文書では正式にはお願いしていません。

問 道路を繋げて全線開通にしなければならぬので、この地域の整備がそれ程遠い話ではないと思う。計画が発表されてからでは遅い。

今こそ小海町内に政策インター・サービスエリアを整備して欲しいと強く要望すべきだ。単に通過するだけでは何の恩恵もない。沿線の市町村にそれぞれインターが出来るのに小海町だけ出来ないのでは、到底町民の理解は得られない。地域活性化インターでは地元がお金を出せば建設してくれるとのことだ。一時的な負担で済めば良いが、除雪

費用や将来の維持管理費を地元が負担するようである。

町長 先延ばしになってきたが、出来るだけ速やかに国土交通省に政策インターを整備していただくように要請行動をしていきます。

白駒の池入り口付近の 交通渋滞解消を

問 湖畔のツツジや紅葉、苔むした原生林に囲まれた白駒の池の人氣があり、シーズンを通して混み合っているために、近くの駐車場が直ぐ満車になり、299号線の白駒の池入り口付近から麦草峠にかけて度々渋滞する。対策の一例として小海町・佐久穂町・茅野市と県・国を交えて対策協議会を立ち上げ、混雑時の期間限定・時間などの通行制限を検討したらどうか。全国の山岳観光地の例に見られる様に、手前で一般車の規制をして、自然保護に併せてバス・タクシーなどの許可車だけの通行を可能にし、輸送業者と観光

産業の活性化に繋げては。

町長 何らかの対策を講じなければいけないと思っています。

地方創生の中で観光を通して交流人口を増やし町の活性化に繋がりたいと思います。

その他、雇用定住促進事業の概要検討案についての質問をしました。



平成29年供用開始に向け建設が進む(仮称)八千穂IC

問

1 佐久広域で佐久市方面に働きかけについて 2 町の特産品の模索について

答

町長 1 佐久市総合戦略に掲げられており、将来ベッドタウン化したいと考えます
2 今後、活性化の課題として研究して参ります



篠原 憲雄議員

問 小海町に企業誘致は無理であるので、雇用の確保、人口減少に歯止めをかけるべき通勤可能な佐久市方面に佐久広域で企業誘致の働きをすべきではないかと思うが、考えはどの様か。

町長 佐久市の総合戦略の中に企業誘致がしっかりと掲げられています。

私も、立地の問題や労働力確保に無理があるという事で、町そのものに企業誘致は難しいと考えています。

人口減少をより穏やかにするために、安価な宅地や住宅

を先ず確保し、定住促進を図っていくこと。又、住みやすい町づくりを推進する。

平成29年度中には、中部横断自動車道が(仮称)八千穂インターチェンジまで供用開始になります。

これらを考えた時に、移住希望者が小海町を選んで頂ける様な政策を行いながら、佐久市あるいは、小諸市の方面に企業誘致し、そちらの方に勤め頂き、将来ベッドタウン化を推進していくことを考えます。

問 町の特産品が無い中、あ

りふれた提案であります。遊休農地対策及び山林等に栗の栽培をしたらどうか。栗の栽培として小布施の栗が有名であるが、小海町の気候にも十分育つ、小布施にも負けない様な町の特産品にしてはどうか。

又、近隣市町村で既に栽培しているブルーベリーを栽培しても良いのではないかと。桃栗3年、柿8年と言います様に、3年経てば成果が期待出来ますので、ぜひ、取り組みをすべきと思いますが、考えはどの様か。

町長 前回、一般質問の中でもキウイフルーツの特産品として栽培したらどうかというご提案を頂きました。今回、栗という事ですが、小海町では小粒で小布施に対抗出来る品質は難しいであろうと思います。

地球温暖化という事で、だんだんフルーツの栽培が出来るものが将来見込められると思っています。それらにつきまして農業改

良普及センターのご指導を頂戴しながら、何が良いのかという事を研究する必要があります。今ではないかと思っております。今の段階においては、そば、鞍掛豆、これらについて推奨していただきます。これらの確立、栽培指針の確立であるとか、品質の改善、こういった事にしっかりと取り組む事が重要であり、今後の一つの活性化の課題として研究して参ります。



現在他の企業が使用している旧千曲電子工場

問 地域おこし協力隊とインターンシップ制度併用で人材確保

答 町長 地域おこし協力隊の皆さんには地元慣れて定住促進に結び付けていただきたい



篠原 伸男 議員

問 町が委嘱しました地域おこし協力隊は町が望んでいる方向に進んでいますか。

町長 農業、商工業、観光の振興に従事していただき、一年後、二年後にしっかりとした基盤ができ、定住へと結び付く事を願っています。

問 長期振興計画の平成28年度から30年度で定住促進・若者定住事業の内容として地域おこし協力隊があげられ、毎年、千七百万円計五千百万円が計上されていますが、この地域おこし協力隊制度をどの

様に活用されるのか、そのコンセプトをお尋ね致します。

町長 28年度は2名の地域おこし協力隊を募集する考えです。一人は林業関係、森林組合を想定しています。もう一人は直売所関係で、いずれも将来は森林組合、直売所の中枢を担っていただける人材、意欲のある人を募集していきます。

得難い専門的職員の採用に



町職員と一緒に特産品をPRする協力隊員

問 農業、林業、商工観光と今まで活動分野のお話を聞きました。次に、私は活動形態の面からお尋ね致します。全国的に見ると協力隊員は役場職員の代替、開業・起業の準備、自由行動の三つのパターンがあります。今、企業では一定の期間働

いてもらって、就職希望者と企業の思いが一致すれば採用していくインターンシップ制度の活用が増えてきています。そこで、この協力隊とインターンシップ制度を併用して役場職員の人材確保を図るのです。協力隊員は3年間、しかも国から150万円の特別交付税もあり、3年経過して、相互納得したら、役場職員として採用する。六次産業化には農業分野の専門的人が必要でしょうし、保育士等の確保し難い職種にこの二つの制度を活用したらどうでしょうか。

町長 全国的には協力隊から役場職員になって活躍しているケースはあります。そういった目的・目標を持って協力隊員に来ていただく。これも一つの方法だと思えます。

篠原議員 地域おこし協力隊制度は地方創生事業の後押しがあるので、将来の小海町を担う役場職員で、得難い専門的職員はこの制度を活用して確保すべきです。

問 TPP交渉大筋合意をどの様に考えているか

答 町長 ずっと反対してきた
 今後も国に対してしっかり要望していかなければいけない



議員 美香子 的埜

問 TPP交渉への大筋合意をどの様に考えているか。

町長 農業を守り、食と命と生活を守る意味から中山間地域の農業の維持、そして米、畜産、野菜等の関税が縮小されるという中でその対応を早急に国にお願いをしていかなければと思っています。

問 この合意内容で進んで行くこと町内農産物への影響は。

産業建設課長 JA長野八ヶ岳ですとか小海町についての影響は試算出来ていません。

町の主要作物だけ見た場合でも、国の方では影響は少ないと言っていますが、鈴木東大教授の試算の内容から見ると、影響があるという事で、今後の対応が大変大事になって来ると思っています。

問 農薬や食品添加物等の基準、遺伝子組み換え作物、有害の恐れがある食材が外食産業や加工食品でこれまで以上に使われる事が懸念されます。学校給食食材など対応は。

町長 安心安全な食材を特に学校給食等に提供して行きま

す。生産コストの効率化、安心安全な美味しい野菜を品質で勝負する。
 そして国産の良さをアピールし、土作り等を支援していきたいながら農家の皆さんが安心して安全な作物を市場に出す。関税撤廃に負けない強い農業を育て、中山間地域での農業の存続にJAと共に取り組みたい。

的埜議員 TPP協定は関税だけではなく、食の安全、医療、保険、雇用等国民生活全般や地域経済に関わるルールが変更されます。影響を明らかにする事を国に強く求めていただき、TPPの危険性を町への影響等数字的な事も含め、JA等と一緒に町民に知らせる事もしていただきたい。

問 障がいを抱える子ども達の学ぶ環境は整っているか。小諸養護は定員を倍以上上回っている。親の送り迎えの負担等の実態は。問題への対応は。

教育長 障がいのある皆さん一人一人の教育ニーズに沿った形で専門的な支援をしており、場所が限られている中では致し方ないと考えます。しかし送迎はご家族のご苦労等大変だと認識しています。福祉的支援の中で検討せざるを得ないと考えています。

的埜議員 障がい児教育に関心を持っていただき、どの子ども大事にされ、良い環境で学べる整備をしていただきたい。



問 町づくり、本気度を持って進めて行く体制が必要です

答 町長 企画、農政、経済係に人的な配置をし、町づくり、農業・商工業の振興にと、今考えています



井出 薫 議員

オスプレイ飛行反対で！

問 「米空軍特殊作戦機C V 22オスプレイを東京横田基地に配備」、安倍内閣は受け入れると発表した。訓練空域と小海町への影響は。

総務課長 横田基地Hエリアということで、南端は蓼科山から小海町を通り、群馬県の南牧村です。本間の中部森林組合事務所の辺です。騒音、低空飛行、非常事態もありえるということ、全く無関係ではないということです。

町長 平成29年から配備ということで情報を早くキャッチし注視する。安全確保に努めていくことが重要だろうと思います。

井出議員 墜落事故が多く、未亡人作成機といわれているからうんぬんでなく、「オスプレイは飛んでほしくない」と明確にしながら情報収集をするという姿勢に私は是非なっていたらいいと思います。このことを強く要求します。

「団体の役割と町」

行政の役割は違う

問 地域の活性化、6月と9月の議会で島根県の海士町と岡山県の西粟倉村を紹介した。町長は両町村の現状を見て、「学ぶところがある」と答弁されたが、今後どう活かしていくのか。

町長 町の資源、文化、経済、小海町にとってこれを活かしてまちづくりをしていく、こういうものが見つからないというのが現状だと思います。良いところは学び活用して参りたい。

問 総合戦略を発表されたが、農業振興、林業振興、商工観光の分野で、具体的な事業、政策決定をどういう分野でやり、審議会や議会に提案するのか。

町長 通常は一定程度事務レベルでまとめ、必要となれば関係する団体、関係する皆さ

んの意見を聞き提案します。

井出議員 小海町の産業建設課は、建設、農業、観光、商業、係になっている。総合戦略には色々書いてあるが、誰がやるのか。具体的には、農協、商工会、森林組合と相談してです。

「団体の役割と町・行政の役割は違う」これが、海士町、西粟倉村の教訓です。

情報の収集、政策の立案、そして情報の発信など、まちづくり推進課をつくり、本気度を持って進めていく体制が必要です。



飛行訓練が計画されている「米軍輸送機オスプレイ」

岡山県西粟倉村「百年の森林構想」視察報告

新津 孝徳議員

今回、私たち小海町議会は岡山県の西粟倉村へ視察に行つて参りました。

当村は岡山県の北東端に位置し、兵庫県、鳥取県と接する中国山脈の南斜面に開かれた谷あいの山里です。人口は1529人、570世帯、面積は57・97km²の内95%を森林が占め、その内85%が人工林という村です。当初はものすごい山の中を想像していましたが、交通面では智頭急行線が鳥取まで通り、高速道路は中国自動車道より鳥取県の国道9号線に接続する為不便はなく住みよい村だと感じました。

西粟倉村は2004年8月住民アンケートの結果、近隣地域との合併協議会を離脱し、村の大半を占める森林を軸とした地域活性化を通じて小規模自治体としての生き残りを模索して来ました。村雇用対策協議会を設置し、Iターンの積極的な受け入れを行いました。それらの皆さんとの間で「百年の森林構想」を着想し、樹齢百年の美しい森林に囲まれた「上質な田舎」を実現しようとしています。

私達の周りもそうですが、約50年前に子や孫の為に木を植えた人々の想い。その想いを大切に立てた立派な百年の森に育て上げていく。

そんな想いから様々な挑戦をしています。主に杉とヒノキの人工林ですが、高齢化により適切な維持が出来なくなった森林を所有者、村、森林組合が長期施業管理委託契約を締結して、国や県の各種補助事業と村費により森林所有者に負担を求める事なく村が管理者として森林経営計画を樹立し、間伐や作業道の整備を行っています。合わせて大部分が未利用のまま放置されていた間伐材を各事業所の専門分野で高付加価値を付け、六次産業化させ、市場に頼らない販売方法を確立しています。

村の自然を生かした事業としては、小水力発電による売電、そしてこの増益分を各事業所に再投資しています。もちろん太陽光発電所もあります。又、森林村ならではの取り組みとして、村の温泉施設のポイラーを薪ポイラーにしました。原油価格の上下に影響されて来たが、村内の資源を有効に活

用する事でランニングコストも安定し、新しい雇用も生み出しています。

これらの取り組みの推進にIターン者に加わっていただき、木材の多様な活用方法、プランディング、情報発信、経営の視点、いずれもこれまで村が苦手とし、うまくいっていない部分だったと村が気付いたところも大きかったと思います。

小海町での取り組みの場所は大変あると感じました。町の真摯な取り組みを期待してレポートと致します。



間伐材の貯木場を視察

各常任委員会からの要望

総務産業

●マイナンバー制度の管理・運用にあたっては、個人情報管理を徹底されたい。

○町長

個人番号制度が平成28年1月から運用開始となります。個人情報の管理につきましては、パソコン等機器の物理的分離措置によりウイルス感染の未然防止や職員にアクセス制限を掛ける事により、職員を起因とする情報の流出防止をしっかりと講じ、更に研修の機会を充実させ、個人情報の保護、管理を徹底して参ります。



●事務事業の実施にあたっては、審査・決裁体制を再確認し、特に事後処理については適切な対応を図られたい。

○町長

審議会委員の委嘱に当たり、事務処理を誤り議会での選任決定とは異なる議員を選任してしまいました。事務上の基本的な事項を怠った事によるあつてはならない誤りであり、誠に申し訳ございませんでした。また、誤りが判明した後の処理につきましても議会対応が遅れ、速やかに是正措置が講じられなかった事につきましても深くお詫びを申し上げます。今後は、複数チェックを徹底し、緊張感を持って事務事業に当たり、再発防止に努めると共に万が一誤りが発生した場合には、迅速に是正し、補正措置を講じて参ります。

民生文教

●北牧楽集館の運営については、大勢の町民の皆さんが気軽に利用できる生涯学習の拠点となるよう努力されたい。

○町長

北牧楽集館は10月4日のオープン以来、大勢の町民の皆さんにご来館をいただいております。これからも町民の皆さんが楽しく学び合い、体力向上、交流のできる場所として教室、講座、図書の実質や魅力あるイベント等町民ニーズに沿った使い勝手の良い施設運営に心掛けると共に経費の節減等効率的な運営管理にも努めて参ります。



図書、施設が充実した町図書館

去る10月27日開催されました長野県町村議会議長会定期総会において井出薫議員が在職18年以上の特別表彰、土橋勝一副議長、佐藤二三雄議員が在職10年以上の表彰を受け、長野県町村議会議長会長より表彰状が贈呈されました。



議会を傍聴してみませんか

- ① 町役場3階にお越しください。
- ② 議場入口にて傍聴の受付をします。氏名等をご記入ください。
- ③ 傍聴席へ

車椅子をご利用の方は、議場内の専用スペースで傍聴することができます。



議会に関する事は町ホームページをご覧ください。定例会一般質問を音声により聞く事ができます。

小海町議会

検索

※平成28年小海町議会第1回定例会は3月第1週より開会予定です。

詳しくは、**議会事務局**電話 0267-92-2525 にお問い合わせください。

編集後記

12月議会はこれまで経験した事のない事にそれぞれ対応が求められました。

原因不明の芦平地区土砂崩落。地域住民の皆さんの安全・安心を第一に取り組み、年とりは自宅でできた事。警戒はまだまだ続きます。

農業振興審議会の開催通知を間違えて別の委員（町議）に通知し、会議を終えた件。間違いは今後気をつけるとしても、その後の「説明と対応」を議会から求められたという行政の姿勢が問われました。

総務産業常任委員会で、継続審査と決めた（賛成多数）議案を本会議で否決された事。法律と条例でルールを守った議会運営が努力されました。昨年の漢字が「安」に決まり、安法の審議や、テロの不安などが挙げられました。

今年こそ「全世界の国民が・平和のうちに生存する権利（憲法前文）」が望まれます。

(編集委員) 井出 薫
編集責任者 鷹野雄之助
編集委員長 土橋 勝一
編集委員 新津 孝徳
編集委員 鷹野弥洲年
編集委員 井出 薫